⑵　外国為替資金特別会計（別表３参照）

外国為替資金の収支は、前年同期の７兆4,927億円の支払超過から、4,761億円の受取超過となった。収入は、前年同期（２兆4,481億円）に比べ、１兆2,931億円増加して３兆7,412億円となった。一方、支出は、前年同期（９兆9,408億円）に比べ、６兆6,757億円減少して３兆2,651億円となった。

⑶　その他の特別会計等

その他の特別会計等の収支のうち、主な項目についてみると次のとおりである。

社会資本整備事業の収支は、収入2,655億円、支出5,281億円、差引き2,625億円の支払超過であって、前年同期（2,945億円の支払超過）に比べ、320億円支払超過額が減少した。

保険の収支は、収入10兆1,349億円、支出16兆7,359億円、差引き６兆6,009億円の支払超過であって、前年同期（７兆3,915億円の支払超過）に比べ、7,906億円支払超過額が減少した。

３　国債等・国庫短期証券等（別表１参照）

△印は支払超過（単位　億円）

区分	平成24年度第３・四半期			前年同期		
	発行(借入)	償還	差引き	発行(借入)	償還	差引き
国債等	323,918	188,070	135,848	315,317	221,980	93,337
国債(１年超)	320,407	187,778	132,629	314,787	221,669	93,117
借入金	3,511	292	3,219	530	311	219
国庫短期証券等	1,136,838	1,059,268	77,570	1,055,644	968,223	87,421
国庫短期証券	1,010,838	933,267	77,570	940,144	852,723	87,421
一時借入金	126,000	126,000	△ 0	115,500	115,500	△ 0

国債等及び国庫短期証券等の発行（借入）・償還状況は、上表のとおりである。

国債等の収支は13兆5,848億円の受取超過であって、前年同期（９兆3,337億円の受取超過）に比べ、４兆2,511億円受取超過額が増加した。国債（１年超）の収支は、発行32兆407億円、償還18兆7,778億円、差引き13兆2,629億円の受取超過であった。借入金の収支は、借入3,511億円、償還292億円、差引き3,219億円の受取超過であった。

国庫短期証券等の収支は、７兆7,570億円の受取超過であって、前年同期（８兆7,421億円の受取超過）に比べ、9,851億円受取超過額が減少した。国庫短期証券の収支は、発行101兆838億円、償還93兆3,267億円、差引き７兆7,570億円の受取超過であった。一時借入金の収支は、借入12兆6,000億円、償還12兆6,000億円、差引き０億円の支払超過であった。

（参考）　実質収支

上で述べた財政資金対民間収支は、各会計等と民間との間における収入支出（窓口収支）のみをとらえたものであるが、各会計等の収支の実態をみるため、これに各会計等相互間の収支（国庫内振替収支）を加えた実質収支を示すと、次のとおりである。

△印は支払超過（単位　億円）

区分	窓口収支 (A)	国庫内振替収支 (B)	計（実質収支） (A)＋(B)
一般会計	△ 32,514	△ 141,355	△ 173,868
特別会計等	△ 90,957	108,980	18,023
財政投融資	8,136	△ 73,263	△ 65,127
社会資本整備事業	△ 2,625	1,977	△ 648
外国為替資金	4,761	445	5,206
保険	△ 66,009	67,335	1,325
その他	△ 35,220	112,486	77,266
小計	△ 123,471	△ 32,375	△ 155,846
国債等	135,848	△ 10,220	125,628
国債（１年超）	132,629	△ 9,883	122,746
借入金	3,219	△ 338	2,881
国庫短期証券等	77,570	42,595	120,166
国庫短期証券	77,570	49,999	127,569
一時借入金	△ 0	△ 7,404	△ 7,404
合計	89,948	—	89,948
調整項目	164	—	164
総計	90,112	—	90,112

第２　国庫対日銀収支（別表４及び別表６参照）

△印は支払超過（単位　億円）

区分	平成24年度第３・四半期	前年同期
国庫短期証券の発行・償還(△)	△ 56,096	8,663
特別会計の債券売・買(△)	21,562	47,323
財政投融資	6,300	44,770
国債整理基金	15,262	2,553
その他	△ 47,719	△ 29,044
計	△ 82,253	26,941

期中における国庫対日銀収支（＊５）は、上表のとおり、前年同期の２兆6,941億円の受取超過から、８兆2,253億円の支払超過となった。

その内容についてみると次のとおりである。

１　国庫短期証券の発行・償還

国庫短期証券の発行・償還による日本銀行との間の資金調達・資金返済状況をみると、資金調達３兆8,127億円、資金返済９兆4,223億円、差引き５兆6,096億円の支払超過であって、前年同期の8,663億円の受取超過から支払超過となった。

２　特別会計の債券売・買

特別会計と日本銀行との間の債券売買の状況をみると、２兆1,562億円の受取超過であって、前年同期（４兆7,323億円の受取超過）に比べ、２兆5,761億円受取超過額が減少した。財政投融資は、6,300億円の受取超過であって、前年同期（４兆4,770億円の受取超過）に比べ、３兆8,470億円受取超過額が減少した。国債整理基金は、１兆5,262億円の受取超過であって、前年同期（2,553億円の受取超過）に比べ、１兆2,709億円受取超過額が増加した。

３　その他

国庫と日本銀行との間の経常収支は、４兆7,719億円の支払超過であって、前年同期（２兆9,044億円の支払超過）に比べ、１兆8,675億円支払超過額が増加した。

第３　政府預金（別表５及び別表６参照）

財政資金対民間収支（９兆112億円の受取超過）から政府預金（＊６）の増減に関係のない調整項目（164億円の受取超過）を除いた収支は、８兆9,948億円の受取超過であった。また、国庫対日銀収支は、８兆2,253億円の支払超過であった。その結果、政府預金の期末残高は、前期末（１兆5,004億円）に比べ、7,695億円増加して２兆2,699億円となった。